

“働きたい!” “社会とつながりたい!”

～無料低額診療事業・炊き出しからみえてきたこと～

群馬中央医療生協では、昨年7月から無料低額診療事業（無低診）を開始しました。また、前橋協立病院職員を中心に生活困窮者の方々への「炊き出し」を継続しています。炊き出しから無低診利用につながる生活再建への一歩を踏み出した事例もありますが、そこまでに至らないケースが少なくありません。無低診事業や炊き出しの取り組みを通して、あらためてみえてきたのは「意志はあるのに就労できない」という深刻な実態です。しかし、一方では「社会とつながってみたい。誰かのために役に立ちたい」という切実な要求もみえてきました。この間がかかわった事例を、ご紹介いたします。

☆仕事をしなくてもみつからない…この悪循環、どこで切り離せるのか!

前橋協立病院
医療福祉連携室

室長 佐藤美奈子

50歳代のBさんは、さわやか健診に訪れた際に医療費の不安を訴えられ、無低診を利用することになりました。以前か

ら高血圧と白内障の治療をしていましたが、経済的な理由で治療を中断していました。Bさんは独り暮らしで、兄弟とは疎遠です。アルバイトで生計を立てていますが、生活費を工面するのにも大変な状態。年齢的にも安定した仕事は見つかりません。無低診を利用する事で、安心して病院に通えるようになりましたが、

生活が苦しい事に変わりはありません。そこでBさんと相談し、生活保護の申請をすることにしました。生活保護の担当者は、Bさんの生活が厳しいという事実は理解してくれましたが、生活保護申請の条件を満たさない部分もあり、即日の申請には至りませんでした。現在Bさんは、就職活動を続けながら生活再建の方法を検討中です。

☆ボランティアとしてお手伝い!

前橋協立病院まちづくり委員会を中心に行っている「炊き出し」に最近ボランティアとして手伝ってくれる方が複数います。みなさん最初は食べにきていた方々で、口数も少なく自身のことを語ることもなかったのですが、徐々に職員へ信頼を寄せるようになり、できることをお手伝いしてくれるようになりました。職員とも楽しそうに交流しています。

私たちが医療生協が「できることは？」
「意見が寄せられています！」



☆働きたいのに仕事がない!

「仕事があればねえ…」

1月21日(土)炊き出し(主催:前橋社会保障推進協議会)に顔を出した50歳代の男性がポツリと話します。15年前失職して以来職につけず、役所からも住所を抹消された

厳しい社会情勢のもとですが、働きたくても仕事がない状況を医療生協として打開することはできないでしょうか? 「一人ひとりのいのちが大切にされ平和と人権が尊重されるまち」にするために、私たち生協ができることはないのでしょいか? 無低診や生活保護などの制度利用が生活再建につながることはあっても、それで完結ではありません。職を失い生活困難になっている多くの方々は仕事について経済的に自立したいという思いだけでなく、就労によって社会とつながりたいという要求があることが今回の事例を通してみえてきました。

「くらしと健康」をお読みになった組合員のみなさんからの多くの意見をお待ちしています。
(編集委員会)

お詫びと訂正

1月号1面写真提供者のお名前に間違えがありました。お詫びして訂正いたします。

【誤】根岸 丈夫様 【正】根岸 文夫様

今、先進国でも、発展途上国でも所得の格差が大きく、1%の人が多くの富を持ち、99%の国民が貧困で苦しんでいるよう

だ。しかし、今まで貧困も自己責任だと思われ、沈黙気味であった99%の人が声を出し始めたようだ。◆このひどい所得格差にもかかわらず、政府が進める「社会保障と税の一体改革」で社会保障のレベルを全国的に下げて、消費税は倍にする。まさに「やらずばったくり」「往復ビンタ」。打撃を受けるのは99%の中でもさらに貧困なワーキングプアをはじめとする低所得者、失業者、病弱者、心身に障害を持つ人、高齢者など、これらを合わせれば国民の60〜70%になる。さらにアメリカの求めに応じてTPPに参加し、国富をアメリカに差し出すと日本はどんな国になるのか。貧しい衣食住の99%、ペンペン草が生い茂る農地、軍事基地と輸出大企業と使い古しの原産群と流民・乞食の群れる国。◆99%で学習し宣伝をしよう。なぜ1%と99%か、貧困と格差はどのように作られたのか、大資本とアメリカが浮き彫りになる学習を。そして99%の人たちに学習の結果を広く知らせよう。「おれたちが地獄へ落ちれば1%の富める者も地獄行きだ。働く人消費する人が激減するのだから。」これもみんなに知らせよう。(梅澤)